

## 福祉施設に高齢者向け食事サービス組み込みを

### 明舞センター建て替え計画で、ひまわり会から県へ要望

明舞センターの建て替え計画が、いよいよ動き出した。センターを3つのブロックに分けて、商業・業務施設や住民交流・文化施設、高齢者や幼児などの生活支援施設、高齢者住宅などを再開発して整備する計画で、まず明舞中央病院東側の県有地を活用する特別養護老人ホームとショートステイ施設、デイサービスセンター等を含んだ「高齢者サポート住宅」(Cブロック)の事業者コンペが行われ、10の事業主体が応募登録した。

こうした中で、明舞ひまわりを運営するNPOひまわり会は1月30日、事業を担当している県の住宅計画課を招き、「ふれあいお食事処 明舞ひまわり」のような高齢者への食事サービスを提供する事業を継続できるように具体的な提案をし、実現を要望した。

提案したのは、高齢化先行地域である明舞団地では、団地再生に高齢者の暮らしをサポートする機能が不可欠であり、デイサービスセンターなどと同時に高齢者向けの食事サービス事業施設を福祉事業の一環として組み込むべきだという要請だ。これまでの福祉住宅(地区)の計画には、食事サービス機能が組み込まれていないが、これからの計画には不可欠な施設として計画段階から組み入れることが必要である。

「明舞ひまわり」は商業施設の空き店舗を活用したものだが、新しく計画する明舞センターには当初から先見的な食事サービス機能を織り込み、高齢者住宅の居住者だけでなく、団地と団地周辺の人たちの「食を通じたコミュニティづくり」の拠点として生かして行くように、実現を図っていきたい。

### 97歳、西尾ユキさん

#### 「ひまわり会」の賛助会員に

狩口台4丁目に住む西尾ユキさん(97歳)は、週3日のデイサービスとタクシーで病院通いの毎日。かつては、地元の高年クラブの会長として活動したこともある。病院帰りに明舞ひまわりの食事に立ち寄り、ボランティアと雑談するのを楽しみにしておられる。

なんとか「ひまわり」を応援したいと考えておられたが、このほどひまわりのリーフレットを読んで、「調理は体が不自由なので、できない。私にできることは賛助会員になることだと思った」と、さっそく入会された。百歳に近づいている人生の大先輩の入会に、スタッフ一同元気をいただいた。

### 「ひまわりの食事は健康食」?



エネルギー 576kcal  
カロリー  
たん白質 30.5グラム  
脂質 17.5グラム  
塩分 2.8グラム  
たん白質と脂質が摂り過ぎになっています。夕食を軽くして調整してください。

芹ごはん、主菜千草焼き、菜の花添え、副菜じゃがいもの揚げ煮、わけぎといかのぬた、ヤーコンのきんぴら、味噌汁の献立(3月25日)一食550~600キロカロリー、塩分控えめ、野菜を多く一食20食品は使用しているひまわりの食事は、昔から家庭でよく使われていた大豆、海草、きのこ、旬の野菜・魚が主材料。一見たよりないような薄味も「ひまわりの味」にはまった人はおいしいという。味覚を変えるとすることは、ほんとうは大変なことなのに、ここではおいしく食事をしながら食習慣が変わっていくのだから不思議というよりほかない。

現在、ふれあい食堂や配食を利用しているお客様の中には、週3回透析を受けている人、糖尿病の治療に悩む人などが十数人おられる。このほど糖尿で悩んでいた大蔵谷のKさんから「血糖値が83に下がって、医者に褒められた」と、感謝のメッセージとともにお花が贈られてきた。歯が悪くて刻(きざ)み食を、嚥下がスムーズにいかないためソフト食を希望する方など、多様なニーズにどこまで応えられるか。治療食の専門家ではないだけに心しなければならぬ。

体にやさしい安心・安全の食事を。そして、優しさを風呂敷に包んで、今後とも提供していきたい。

写真は「三月春のメニュー」の一例である。

# WAMの「長寿・子育て障害者基金」事業

## 多彩に展開し3月末で無事終了

独立行政法人福祉医療機構（WAM）の助成事業が無事終了し、3月末報告書を提出した。

一昨年10月、高齢化率30.4%を超える明舞地域で取り組むべき課題として、

- ①独居高齢者、入退院を繰り返す虚弱高齢の夫婦世帯への配食強化(1.5倍に増やす)
- ②独居男性高齢者への「食の自立支援」として男性料理教室を開設

の二点をあげて企画書を提出。昨年3月内定し、5月に助成決定が通知されたあと、次のような事業を展開してきた。こう

した活動の強化によって、明舞地域の住民との交流を深め、ニーズをさらに掘り起こすことができた。今後さらにこうした活動を発展させるよう、日常活動を展開していきたい。

- 「ひまわり通信」の隔月発行
- 「NPOひまわり会&明舞ひまわり」のカラーリーフレットの発行
- 「食の自立支援」をめざした男性料理教室を7回開催
- 生活体験交流会
- 講演会「高齢期を自分らしく生きるために」の開催
- 虚弱・独居高齢者への配食サービスの強化と見守り活動の展開

## 第2回ニュータウン人（びと）縁卓会議

大阪・千里で開催 団地再生へ12地域から

### 明舞ひまわりの活動も共感呼ぶ

第2回ニュータウン人（びと）縁卓会議が2月16日、千里ニュータウンの千里藤白荘で開かれ、NPOひまわり会の入江代表もパネラーとして参加した。午前中は千里ニュータウンを見学、午後は大阪府立大学大学院の増田昇教授による「千里ニュータウンの再生」と題した基調講演、フォーラム「ニュータウンの現状について」では12地域から参加したパネラーによって各地域の活動が報告された。

いづこも高齢化、老朽化にともなう建て替え問題や若い世代が減っている悩みが報告され、世代構成のバランス、NPOと地縁団体が協働していく問題が話し合われた。主催者の予想をはるかに超えた参加者で熱気あふれる会となった。ひまわりの活動紹介にも共感を呼び、さっそく見学の申し出も出るほどだった。

この通信は、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の助成金を受けて発行しています。



▲お弁当の配達へ出発秒読み。配達先とスタッフのチェックに大わらわの時間。

## 栄養士の大石鈴子さん

4月から常勤スタッフに



調理ボランティアスタッフとしてオープン以来明舞ひまわりに参加していた大石鈴子さんが、勤めていた高校をこのほど退職し、4月9日から栄養士、食品衛生管理員としてひまわりの活動に参加することになった。献立の作成、栄養診断、食品衛生面でその専門性を生かした活動が期待されている。

**大石鈴子さんから** ひまわりの食事サービス開設の時に入江代表の勧めで栄養士として活動メンバーに登録していましたが、男性料理教室など行事のみの参加でした。この4月から毎日、皆様と一緒に活動させていただくことになりました。なつかしい家庭の味、季節を感じ、栄養のバランスに気をつけて、できるだけ多くの皆様に喜んでいただけるメニューを考えるよう努力します。よろしくお願いいたします。